



# いたわりPlus

2022年3月



## 質の高い診療情報を提供します 最新型装置によるCT検査

2人の日本X線CT認定技師たち

昨年3月に導入した  
最新型64列デュアルエネルギーCT装置



検査に関する質問はお気軽に技師へお尋ねください

最新型  
CT

ここがスゴイ!!

従来の装置に比べて、より鮮明な画像が撮影可能になったことに加え、患者さんへの負担が少なくなりました。

検査時間が  
短い

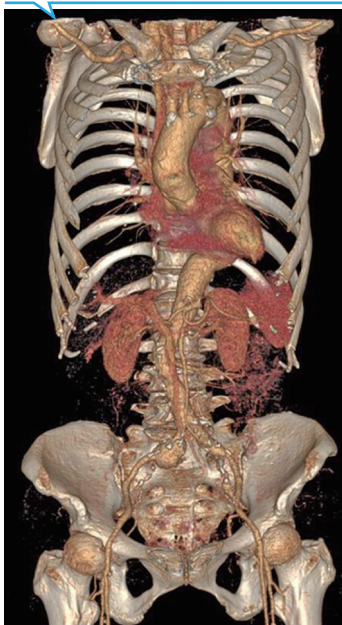
放射線被ばくが  
大幅軽減

最小限の造影剤で  
撮影可能に!



診断精度の向上や病気の早期発見につながる画像の提供に取り組みます

血管や臓器がより見やすくなりました



※造影剤を使用して撮影

## 2つのエネルギーを使い、細かい病変まで写し出す新型CT

当院が昨年導入した最新型CT装置は、「デュアルエネルギー撮影」が可能です。

その特長は、2つのエネルギーを使って撮影すること。それにより、血管や臓器はもちろん、従来のCTでは写し出すことができなかった細かい病変まで画像化できるようになりました。

また、最小限の造影剤で撮影ができるよ

うにもなりました。CT検査では、詳しく調べる際に造影剤を使用しますが、腎臓の働きが良くないと造影剤を使用できず、診断に遅れが生じる場合もあります。デュアルエネルギー撮影では、造影剤の効果を高めることができるため、使用量を抑えても今まで同様の画像が得られます。患者さんの体への負担が軽減できるようになりました。

安心・安全な  
検査を提供  
するために

CT検査を行う当院の放射線科には、日本X線CT認定技師の資格を持つ2人の診療放射線技師が在籍します。

CT装置を安全かつ効果的に使用するには、最新技術への対応や、放射線量の管理などの専門的なスキルが必要です。当院では、認定技師を中心にそれらに対応し、可能な限り抑えた線量で、診断する医師が求める質の高い画質の提供に取り組んでいます。

# 排尿ケアチーム

手術の後や病状によりトイレへの移動が難しい場合、入院患者さんに尿道カテーテル(尿を出すために尿道から膀胱へ挿入するチューブ)を使用することがあります。

尿道カテーテルは治療に必要なものですが、使用期間が長くと感染症や、膀胱機能の低下による下部尿路機能障害<sup>\*</sup>を引き起こしたり、患者さんの心理的負担が大きくなることもあります。

そこで「入院患者さんの排尿の自立を支援し、退院後の生活につなげること」を使命に、2019年に立ち上げたのが排尿ケアチームです!

※下部尿路機能障害:尿失禁、排尿困難、重度の頻尿など



**どの病棟に、どの診療科に入院しても 私たちが密かに見守っています!**

作業療法士 (リハビリテーション科) 泌尿器科 医師 看護師 泌尿器科 医師 看護師

## チームのアクション!

- 1 対象患者さんの状態を把握
- 2 尿道カテーテルの早期抜去を実現
- 3 抜去後の患者さんの見守りを徹底

病棟スタッフと連携

下部尿路機能障害の早期発見  
⇒泌尿器科受診へ

チームの介入実績は3年間ですでに延べ1,400件以上!

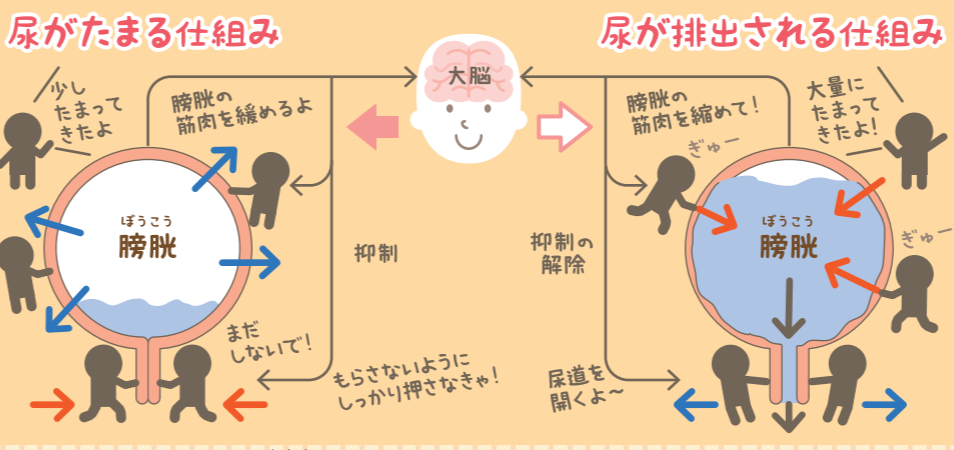


◀病棟で「待っていました!」と迎えられる排尿ケアチーム。院内スタッフにとって、頼もしい存在です

▲病棟看護師が毎日記録する患者さんの排尿日誌などをチェックしながらチームで打ち合わせ

排尿ケアチームの活動は毎週水曜日の午後。まず、対象となる患者さん一人一人について綿密に打ち合わせをしたら、いざ病棟へ。病棟看護師に患者さんの尿意の有無やトイレ誘導ができない理由、介助方法で困っていることなどを聞き取り、今後の対応を一緒に検討していきます。

当院では、さまざまな専門職種のスタッフが連携・協働し、医療の質を高めながら地域に根差した患者さん中心のチーム医療に取り組んでいます。現在活躍するのは8つのチーム。その中から今回スポットを当てるのは「排尿ケアチーム」です。



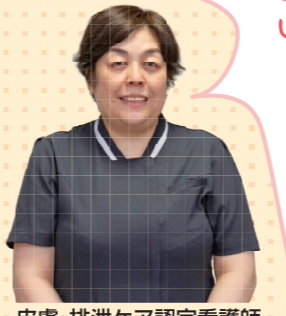
尿は、膀胱の収縮と尿道の弛緩で排出します。膀胱でためられる尿量は約200~400ml。排出すると、通常、膀胱内はほぼ空になります。しかし脳や神経、膀胱の障害などさまざまな原因で排尿障害を引き起こし、残尿(排尿後も膀胱内に尿が残る状態)が発生することもあります。そのため残尿の確認は、ほかの病気を併発しないためにも重要です。



残尿があるかないかは、エコーで確認します。左の写真の機械を下腹部に当てるだけでできる、簡単な検査です。

当院では、尿道カテーテルを抜去した患者さんに残尿測定の検査を行い、下部尿路機能障害の早期発見・治療につなげています。

排尿の障害は、誰にとってもデリケートな問題です。私たちが日常、何気なく行うトイレでの排泄は、それができなくなると身体的にはもちろん、精神的にも社会的にも非常に辛くなってしまいます。



皮膚・排泄ケア認定看護師 南出 花菜

当院では、医師・看護師・リハビリ職のチームが一丸となって、病棟スタッフと連携しながら、患者さんにとって最善の方法を見出し、一人一人の状態にあった排尿ケアができるよう努めています

## 貧血について

医療監(総合内科) 森 正光 医師

皆さんは、貧血という言葉をご存知ですか? ふらふらする時でしょうか? 医学的に貧血は、「血液の中の赤血球の数や血色素(ヘモグロビン)がある基準以下になった状態」を言います。

貧血の中で最も多いのは、鉄不足から生じる**鉄欠乏性貧血**です。一般的な貧血なのですが、内科医でも正確に診断し、適切な治療を行っているのは意外に多くありません。その診断は、血液検査で血色素が12g/dl以下に減少して貧血があること、赤血球の大きさが小さくなっていること(小球性)、そして**身体の中の鉄分の貯え(貯蔵鉄<sup>\*</sup>)**が減少していることなどでなされます。

医師を含めて多くの人が誤解するのは、**血液**の中の鉄分(血清鉄)の少ないのが鉄欠乏性貧血と考えていることです。これでは不十分なのです。ですから鉄欠乏性貧血と言われた時には、「小球性ですか? 貯蔵鉄は減っていますか?」と聞いてみましょう。

それでは、鉄欠乏になる原因は何でしょう? 多い原因は慢性の出血です。若い女性の生理や子宮筋腫など婦人科の病気や、胃・十二指腸潰瘍、胃がんや大腸がんなどの消化器の病気です。

そのため鉄欠乏性貧血の時には、婦人科の受診や内科(消化器)で内視鏡検査を受けることをお勧めします。

治療としては、まず貧血を起こす病気が見つければその治療をします。鉄欠乏の治療は鉄剤の内服ですが、それが困難な場合は注射剤もあります。

重要なことは、治療で貧血が改善し、治った後も鉄剤の治療をすぐやめないで、身体の中の**貯蔵鉄が正常値になるまで**鉄剤の治療を続けることなのです。

※貯蔵鉄は血清フェリチン値が反映します



## 大きな木はどのように中庭に入れたの?



平成8年11月に現在の病院の建築工事がスタート。今回は書庫に残された当時の現場記録から、中庭の木の謎をひもときました!

当院の中庭には、サクラやナナカマドなどの大きな木があります。調査したのは、これらの木を「中庭へどのように搬入したのか?」ということ。

現在、木々は中庭に通じる扉より大きく成長しています。ここから「もともと中庭にあった」説と、「小さな苗木の状態で運んだ」説が浮上しました。

しかし、それをくつがえしたのが、書庫に保管されていた当院の建築工事の記録です(写真①②)。見ると木は初めから大きく、大型クレーンで吊

り上げ、建物を越えて中庭へ搬入した模様。謎はあっさり解けました!

中庭は、毎年4月下旬のサクラが咲くころから開放しており(10月下旬～翌春までの冬期間は閉鎖)、日中、天気が良ければ中に入ることができます。

当院にお立ち寄りの際は、この中庭に入って大きな木を見上げてみませんか? サクラの開花も待ち遠しいですね。



① 中庭着工前の様子。木は存在していませんでした!



② すでに4mほどある木。大型クレーンの姿も見える(平成10年8月撮影)



◀この調査では中庭のサクラの品種が**チシマザクラ**であることも判明しました!

次回は、中庭の調査で判明した「鳥の鳴き声」について報告予定です!



### 管理栄養士監修



## 健康のレシピ

### イチゴ白玉の練乳シミルク

イチゴはビタミンCの宝庫。約10粒で1日分の推奨量を補えます。抗酸化作用も強く、免疫力を高めたり、コラーゲンの合成をサポートし、食物繊維も豊富です。

材料 (3~4人分)	イチゴ.....100g
イチゴ.....50g	(飾り用をとりおくこと)
白玉粉.....80g	牛乳.....1カップ
砂糖.....大さじ1	練乳.....大さじ2
絹ごし豆腐.....40g	ゆであずき.....40g

#### 作り方

- イチゴ50gをフォークでつぶす
- ①に白玉粉、砂糖を加えて混ぜる
- ②に絹ごし豆腐を少しずつ加えて混ぜる(こねる)。耳たぶ程度の硬さになったら一口大に丸める ※生地が軟らかければ白玉粉を足して調整を!
- 沸騰した湯で③をゆで、浮き上がった後氷水にとる
- ボウルにイチゴ100gを入れ、フォークでつぶす
- ⑤に牛乳と練乳を加え、混ぜる
- 器に水気を切った④を盛り、⑥を注ぎ、ゆであずきと飾り用イチゴを添える



#### ワンポイント



白玉に豆腐を加えると、もちもちとしてやわらかな食感に仕上がります!

### 病院サポーターズ

患者さんや病院スタッフをさまざまな形で支えてくださる皆さんをご紹介します!

### 江別陶芸会



「チャリティー工芸展」に出展された工芸家の皆さん

病院に欠かせない車椅子。当院には現在140台あり、そのうち26台が江別陶芸会より寄贈されたものです。

江別陶芸会は、年1回主催する「チャリティー工芸展」の売り上げの一部から、車椅子を寄付して下さり、昨年11月にも3台寄贈いただきました。

「チャリティー工芸展は私たちにとって地域に貢献できる大切な場」と会長の新林裕子さん。毎年市内の工芸家に声を掛け、陶芸や金属、ガラスなどさまざまな工芸作品が並ぶすてきなイベントです。ぜひ皆さんも足を運んでみませんか?

#### 江別陶芸会

市内で活動する陶芸家団体。2005年から毎年秋に公民館等(EBRI)でも2回で「チャリティー工芸展」を主催。1998年設立。会員数7名。毎年病院ボランティア・コスモスへ、児童書購入費の寄付も行っている。



長く大切に使うため、職員が定期的にメンテナンスしています